ジャマイカ政治・経済月間情勢（９月・10月）

【要旨】

　内政において、8月に発生したクラレンドンでの銃乱射事件に引き続き、同教区でのギャング間の抗争の激化に伴い、緊急事態宣言（ＳＯＥ）が同地域に発令された。ナイジェル・クラーク財務・公共サービス大臣の国際通貨基金（IMF）の副専務理事就任にあたり、フェイバル・ウィリアムズ教育大臣が、クラーク氏の後を引き継いで女性初の同職に就任した。外交においては、国連のハイチ支援任務に参加するため、20人の兵士と4人の警察官がハイチに到着し、ホルネス首相はニューヨークで開催される第79回国連総会に出席。さらに同首相はインドを訪問した。また、日本政府は「草の根人間安全保障支援事業（GGP）」を通じて、オールドハーバー高校にバスを供与した。

［本文］

1. 内政
2. クラレンドン県で非常事態宣言（SOE）発令

クラレンドン県全域にSOEが発令された。この治安措置は、ジャマイカ中部の県で対立するギャング間の抗争が激化し、組織的な銃による暴力事件が急増しているためだ。SOEは、チェリー・ツリー・レーンで発生した銃乱射事件と、その事件に関与した容疑で 2 人が起訴されたことを受け、8 月に実施された作戦をさらに強化するものである。ホルネス首相は、クラレンドン県の国家安全保障状況は、さらに断固たる緊急措置が必要な段階に達していると述べた。当初の8 月の宣言は作戦上成功を収めたが、新たな情報評価により、追加の対応が必要であることが明らかになった。ホルネス首相は、政府は、いかなる県においても犯罪者が生活や治安を支配することを許さず、法の力を持って、クラレンドンの住民の生命を守り、コミュニティの安全を確保すると明言した。（9月13日付　オブザーバー紙）

1. フェイバル・ウィリアムズ氏、財務・公共サービス大臣に就任

フェイバル・ウィリアムズ教育・青年大臣が財務・公共サービス大臣に就任し、同職に就く初の女性となった。ホルネス首相は、10月30日（水）にジャマイカ・ハウスで開催された閣議後の記者会見で、この人事を発表した。この人事に伴い、ダナ・モリス・ディクソン上院議員が、教育・青年大臣に任命された。この人事は、10月31日に国際通貨基金（IMF）の副専務理事に就任するナイジェル・クラーク氏の辞任を受けて決定された。さらに、マシュー・サムダ氏が経済成長・雇用創出省の無任所大臣に再任される。サムダ氏は本日（10月30日）に就任宣誓を行う予定である。ホルネス首相は、これらの任命は「政府の機能の安定を維持し、混乱を最小限に抑えるため」であると述べつつ、「同時に、成長志向の経済政策への転換に重点を置き、人的資本開発を優先する」ことを目的としていると説明した。

また、ホルネス首相官邸のシニアアドバイザーで、財務分野の専門知識で高い評価を受けるアロク・ジェイン氏が、新任の財務大臣と緊密に協力すると述べた。

ホルネス首相は、HEART/NSTAトラストと教育を同一組織下に統合することで、政府の人材育成への焦点を強化し、教育システムにおける技術・職業訓練の統合を促進すると述べた。サムダ氏は、水供給と環境保護におけるこれまでの重要な進展を継続すると述べた。ウィリアムズ大臣は、財務大臣として務める機会を得たことを深く光栄に思うと述べた。同大臣は「この役職は大きな責任を伴うものであり、我が国が直面する重要な局面において任命されました。私たちは、目標、忍耐力、そしてすべての市民に安定と機会を提供する未来を築くための揺るぎない責任が求められる時代にあります。私は、この目標を実現するために尽力することを誓います。」と述べた。

同大臣は、責任の明確化と革新を最優先し、人々のニーズと希望に真摯に耳を傾けることを誓った。「私たちの経済は、世界中の経済同様、課題に直面しているが、その課題の中に、これまで築いてきた基盤をさらに強化し、より強靭な国を築くための驚くべき機会を見出している」と述べ、持続可能な成長に必要なインフラへの投資を継続すると強調した。一方、モリス・ディクソン大臣は、国を前進させるような人材を育成するためには教育が不可欠だと述べ、どの子供も取り残されず、能力を発揮でき、リーダーになれるよう平等な機会が与えられることは重要だと強調した

（10月30日付　ジャマイカ情報サービス局）

1. 外交
2. ジャマイカ治安部隊、安全保障任務のためハイチに到着

9月12日（木曜日）にジャマイカを出発した20人の兵士と4人の警察官が、強力なギャングに対抗することを目的としたケニアが率いる国連支援任務に参加するためハイチに到着した。ジャマイカは、2023年10月に国連安全保障理事会で承認されたこの任務に参加した2番目の国であり、6月下旬にケニアの警察部隊がハイチに派遣された際に参加を決めた。治安部隊のメンバーの中には、ベリーズから派遣された2人の高級軍幹部も加わった。彼らは米国沿岸警備隊の航空機でハイチに輸送され、ハイチの軍隊や警察と共に、ポルトープランス（ハイチの首都）の80％を支配するギャングと戦う任務に当たる。（9月13日付　RJRオンラインニュース）

1. ホルネス首相、ニューヨークで開催される第79回国連総会に出席

ホルネス首相は公式インスタグラムのアカウントを通じて、本日（2024年9月20日）、「多様性の中の団結：平和、持続可能な開発、およびすべての人々の尊厳の促進」をテーマにニューヨークで開催される第79回国連総会に向け出発すると発表した。ジャマイカは、独自の開発課題を抱える小島嶼開発途上国として、持続可能な開発に関する強い提言の声を上げてきた。さらに、この提言は現在も継続されており、国際社会との連携に加え、当国の地域的な状況に即した目標の実現を目的として維持されていくと述べた。（9月20日付　マクロ経済ニュース）

1. ホルネス首相、インド公式訪問

ジャマイカからインドへの二国間関係としての首脳訪問は初（注：マルチの会合では１９８３年に訪印あり。また逆のケースとして、２０２２年にインド大統領がジャマイカを訪問したが、インド首相によるジャマイカ訪問は１９７５年の英連邦会議以降記録がない。）。今般の訪問にはスミス外相及びディクソン情報担当無任所大臣が同行。訪印中、在インド・ジャマイカ高等弁務官事務所が開館した。１日の首脳会談後の記者会見で、ホルネス首相は、インドとの間で科学・技術・数学・デジタル化、安全保障及びエネルギー分野での協力強化を期待している、特にエネルギー分野について、エネルギー源の２０３０年までの多様化目標達成への協力に期待すると共に、インドが主導するGlobal Biofuels Allianceに参加する意向である、等と述べた。更に気候変動の影響に言及し、モディ・インド首相がジャマイカをInfrastructure for Resilient Island States (IRIS)及びCoalition for Disaster Resilient Infrastructure (CDRI)の設立メンバーとして誘ってくれたことを誇りに思う旨述べた。同記者会見でモディ・インド首相は、ジャマイカ軍の能力向上への協力を表明、また在ジャマイカ・インド人コミュニティを賞賛しつつ、１８０年前のインドからの移民開始が両国の人的繋がりの基礎となった、現在はインド系ジャマイカ人が７万人近くいる等述べた。（9月30日付　グリーナー紙）

1. オールドハーバー高校、日本からバスを寄贈される

セント・キャサリン県にあるオールドハーバー高等学校の生徒たちは、日本政府から贈呈された29人乗りのバスを受け取ったことで、信頼できる交通手段を手に入れた。この車両はJ$1100万を超える価値があり、主に長距離通学する生徒たちの安全で信頼性が高く効率的な交通手段の役割を果たす。また、校外学習やスポーツイベント、その他の活動でも使用される。フェイバル・ウィリアムズ教育・青年大臣は、日本政府が「草の根人間安全保障支援事業（GGP）」を通じてバスの購入資金を提供したことに感謝の意を表し、GGP事業が学校の整備に重要な役割を果たしてきたと述べた。一方、渥美恭弘日本大使は、日本がジャマイカと共に教育制度の強化を支援し、すべての生徒が教育と生涯にわたる技能訓練の機会を追求できるよう尽力すると表明した。

（10月7日付　ジャマイカ情報サービス局）